

平成30年度第2回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成30年11月22日(木) 15時～16時30分
2. 会議場 松浦市役所 4階 第4委員会室
3. 出席者
 - 松浦市長 友田吉泰
 - 松浦市教育委員会教育長 今西誠司
 - 〃 教育委員 島田茂明、金井田秀規、氏山智美
 - 〔事務局〕 学校教育課 宮島哲郎
 - 教育総務課 石黒修子、宮崎直人
 - 生涯学習課 宮本京平
 - 文化財課 内野義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 協議
 - ① 上志佐小学校への特別転入学制度について
 - ② 子ども議会での中学生議員の提言を受けて
 - (4) その他
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり(要点記録)

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	<p>ただ今から平成30年度第2回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友田市長がご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>皆様、こんにちは。教育委員の皆様には、第2回総合教育会議にご出席を賜りありがとうございます。今日の議題は、小学校の児童の減少によって複式学級の問題が出ている上志佐小学校への特別転入学制度についてと、先般開催しました子ども議会での中学生議員の提言を受けてという、この2つの議題について、教育委員皆様方のご意見を賜りたいと思っています。</p> <p>後ほど詳しい説明が担当からありますが、上志佐小学校の問題については、従来、松浦市教育委員会として示されている方針とは若干異なった対応になってまいります。こういった意味でも是非皆様方の忌憚のないご意見をいただき、なぜこのような取組みを考えているのかということについて、十分協議をしていただき、ご意見を賜りたいと思っています。</p> <p>2点目の子ども議会については、本当に子どもたちが松浦のことを考えて、提案をしてくれるというのは、非常に素晴らしいことだと思いました。実は、特徴的な取組みとして、子どもたちに事前に質問の通告をしてもらって、その答弁については先にお渡ししていました。それを踏まえて、更に踏み込んだ再質問をしてほしいということで、再質問の内容については、通告がありませんでした。私ども理事者側も緊張感をもって対応をしました。結果的に全ての学校が再質問ということにはなりませんでしたが、それぞれに子どもたちが「どのような再質問をすれば</p>

<p>教育総務課長 教育長</p>	<p>いいか」考えた結果の質問だったと思います。松浦市のことをより深く考えてもらうためには、ひとつのきっかけになったのではないかと考えています。こういったことを踏まえて、子ども議会を今後どう教育に生かしていくかという視点でも後ほど議論いただきたいと考えています。</p> <p>どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。</p> <p>教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は、第2回目の総合教育会議ということで、このような協議の場を設けていただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃より教育関係の施策にご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。特に、毎月19日の食育の日には、これまで5校で児童と会食しながらいろいろなお話をさせていただきました。子どもたちも喜んでいましたし、市長さんのことを身近に感じたのではないかと考えています。</p> <p>さて、今回のテーマを、子ども議会の内容から取り上げて頂いていますが、議会に参加した中学校の代表者20名にとって大変貴重な経験が出来ました。また、出された意見や提案は多くの生徒たちが協議したものであり、これからの松浦市を担う中学生に本市の現状や課題を知ってもらうと共に、改善策を考えることで大きな学びの場になったと思います。</p> <p>この後の協議でも、有意義な意見交換ができればと思っています。</p> <p>結びになりますが、教育は人づくりとまちづくりの根幹と考えます。友田市長におかれましては、今後も引き続き、教育行政推進に対するご尽力をお願い申し上げます。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、協議に入っていただく前に資料の確認をお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友田市長が行います。よろしく申し上げます。</p> <p>規定により、私の方で、議事進行を務めさせていただきます。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>議題1 上志佐小学校への特別転入学制度について、学校教育課長に説明をお願いします。</p> <p>お手元に配付しています「平成30年11月 松浦市立上志佐小学校への特別転入学制度について」の資料をご覧ください。この資料は11月7日に志佐小学校の希望する保護者に説明したときに活用した資料です。</p> <p>保護者に対しましては、特別転入学制度を実施し、小規模校のメリットを最大限に生かした教育活動を実践するために、この制度を採り入れますと申し上げました。しかしながら、この制度を活用するにあたりましては「松浦市小・中学校適正配置基本計画」、これが第一の基本となっています。この基本に沿いますと(1)1学年2学級以上の学校が望ましいが、まずは、複式学級のある学校の統合を行うということで、複式学級ができた学校は統合を行うことが大原則です。</p> <p>(2)平成29年度に上志佐小学校に複式学級が発生したあとの児童数の推移を載せています。網掛が複式学級になる児童数の学級となっています。平成30年度から2学年ずつの複式学級が2学級発生し</p>

ているところです。保護者には、複式学級がどのようなものなのかということに記載のとおり説明しました。

2(1)に戻っていただきまして、特別転入学制度について説明させていただきました。特別転入学とは、志佐小学校区域に住所を有する児童が上志佐小学校に入学又は転学すること及び入学又は転学後、上級の学年に進級すること。通学の期間は、当該学年の4月から翌年3月までの1年間とする。ただし、教育長が特別の事情を認める場合は、年度の途中から又は年度の途中までの期間を通学期間とすることができる。説明会の折にはこのことを付け加えて説明していましたが、人事異動等の関係もありまして、原則1年間という考えで進んでいく可能性が十分ありますということをつけ加えて説明させていただいたところです。

入学又は転学等を希望する場合は、保護者は教育委員会に申請書を提出し、教育委員会が特別転入学の可否を決定する。先ほどの教育委員会で要綱を議決していただきましたので、この制度が実施されるということになります。

同じように、小規模校のメリットがどうなのかということ(2)に記載させていただきました。一つ目は、自然環境に恵まれた小規模校としての特性を生かした教育を実施する。二つ目は、一人ひとりの学習状況や学習内容を的確に把握でき、個別指導等を含めたきめ細かな指導が実施できる。一人ひとりがリーダー等を務める機会、意見や考えを発表する機会が多くなる。といったことを特性として説明しております。加えて上志佐小学校では、平成26年度から教育課程の特例校として英語教育の実践をしています。平成27年度からこの取り組みを生かした学力向上の取り組みも推進しています。学力向上でも一定の成果が出ているところです。

3番目が学校を核としたコミュニティスクール構想の推進ということで、現在、校長がそのことに力を入れて進めていますという話もさせていただいたところです。

3. 今後の動きとして、11月30日に上志佐小学校の学校見学会を実施するようにしています。午前中と午後の最後に、校長の説明をするようにしています。校長がDVDを作成して準備をしているようです。

本日、要項が議決されましたので、12月3日から20日にかけて、特別転入学の申請の受付をしたいと思います。その後、松浦市立上志佐小学校特別転入学可否決定通知書を保護者へ送付する予定です。

2月5日には、上志佐小学校の入学説明会を実施し、転学を希望する現2年生から現5年生、志佐小学校に通っている児童や保護者も参加可能なものとした説明会を実施してもらうように小学校と話をしているところです。

最後に、この制度を活用しての結果を検証していくことについても、上志佐小学校でも志佐小学校でも説明しまして、この成果によっては統合も有り得るということまで説明しているところです。

以上です。

<p>市長</p>	<p>ただ今、学校教育課長から説明がありました上志佐小学校への特別転入学制度について、皆様からご意見を賜りたいと思います。忌憚のないご意見をお願いします。</p> <p>冒頭のあいさつでも申し上げましたが、従来の既に統廃合が済んだ学校との取り扱いが違うという点が、一部市民の皆様方、議会からもご指摘をいただいています。</p> <p>ただ、今開催している第2次総合計画策定に向けた「未来会議」の第1回の会議の中で、この10年で松浦が取り組んできたことや、良かった点、悪かった点があって、その良かった点の中に学校が統合されたということが出ていました。これは、学校を統合したことで、子どもたちが取り組むクラブ活動でチームが一つできた点が良いとか、大きなクラスで多くの児童と勉強できて良かったといった声もありました。一方で通学距離が遠くなったということはありませんが、それはそれとして良かった点があったということは、教育委員会として考えてきたことは市民の皆様方にもマイナスとしては受け止められていなかったという思いがありました。</p> <p>一方で上志佐小学校ではなぜやらないのかということ、既に説明がされているかも知れませんが、上志佐小学校の児童を志佐小学校に受け入れしようとする、教室が足りないという点があって、これを解消するためには、これを試行期間として行って、今後のまちづくりの中でもどうかならないかということがあるものですから、率直に教育委員という立場でこの取り組みについて、課題として感じておられることがあれば、ご指摘もいただきたいと思ひますし、こういった視点ではどう対応しているのかといったこともあれば、是非お聞かせいただきたいと思ひます。</p>
<p>島田委員</p>	<p>福島町のことを考えてみますと、養源小学校の統合には反対がありました。各学校で冊子を作るということで、私にも筆耕依頼がありました。そこに書かせていただきましたが、そういう反対を押し切ってやった以上は、そのメリットをいかに生かすか、実際に統合して良かったということを、しっかり証明をしていくことが必要ではないかと思ひます。上志佐小学校でこういった取り組みをして良かったという実績をつくっていくことが必要ではないかと思ひます。やはり、実際にやってみないとわからないことがありますので、こういった取り組みを行うことは大いに行うべきです。その結果を出すために、メリットをしっかり生かしていくことが、今後のそういった取り組みに大事なことだと思ひます。</p>
<p>市長</p>	<p>第一に考えなくてはならないのは子どもたちがどうなのかということに主眼を置かなければならないと思ひています。</p> <p>一部の保護者の声では、統合することを反対している人ばかりではないのだとの声もあります。果たしてどうなのかということはあったのですが、実は、毎月19日の給食の時に上志佐小学校に行って、5、6年生と給食を食べました。そこで、子どもたちが「市長さん、上志佐小学校をなくさないでください。」と言うのです。「上志佐小学校はいい学校なのですよ」と、子どもたちが言うのです。子どもたちがこのように思っているのなら、チルドレンファーストで考えたときに、</p>

<p>島田委員</p>	<p>可能性は考えるべきではないかなと思いました。大人だけでなく子どもたちがこのように言うのなら、それはそれで考えてあげなければならないのではと思いました。私もその言葉に刺激を受けました。</p> <p>ただ、やる以上は、上志佐小学校に志佐小学校から希望して行く子どもたちにとって、上志佐小学校に行って良かったと思えるようなことをやらなければならないと思います。そこに行くことによって環境が変わって、これまで以上に伸ばせるようなことができるだとか、地域の皆様も合わせて、色々な方が関わっていくことが必要ではないかと思えます。</p> <p>学校に行く機会があります。学校では統合してよくなかった点は全然耳にしません。子どもたちの生活の様子や、この前も給食と一緒に食べましたが、ある程度の人数の中で、旧養源の子どもは2、3人だったのですが、給食を食べていました。そういった多くの子どもたちの中で楽しく食事をするとかいうのが、微笑ましくて、生活にも学習にも張り合いが出ているのではないかという気がしました。メリットが生かされていると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>福島地区小中学校の体育館の落成式に参加させていただきました。その時、給食と一緒に食べて、私はどの子が旧養源校区で、どの子が旧福島校区かわかりません。でも、本当に子どもたちがクラス一体となって出し物に学習発表に取り組んでいる。福島養源小学校で言えば統合して大きなメリットが出てきたのだなと思いました。それとは相反する形に上志佐小学校はなるわけです。小規模校を存続していこうということですので。そういった意味では、そのメリットというのは、島田委員ご指摘のメリットを出さなくてはいけないということが大きな課題になるのでしょうか。そういった点で教育長いかがですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>10年ほど前から統合の話がありました。その時には、大規模校に小規模校が行くというのが全部でした。今、福岡県福津市や県内で大村市で、逆に大きい学校から小さい学校を望む子どもたちの希望を叶えようということにもなっています。小さな学校の存続、その地域の存続ということからも増えている実態があります。また増えているということは、それなりの効果があるのかなと思っています。</p> <p>実は、説明に行った時に、私が一番心配したのは、上志佐小学校の保護者が「志佐中学校で一緒になるのだから、小学校は志佐に通わせたい。これまでも大きい学校に統合してきた。」と言われるかと思いましたが、その声はありませんでした。そういった雰囲気は全然ありませんでした。</p> <p>ただ、一つ心配されているのが、上志佐小学校に志佐小学校から来る子どもたちがどんな子なのか、今、小さな学校でみんな兄弟のようにしている中に入ってきた時に、マイナス面が生じないのだろうか、そういった不安をもっていらっしゃるようでした。これについては逆に、子どもたちは環境にすぐ順応して、ちょっと気持ちが荒んでいる子も和むという場合が殆どです。また或いは上志佐の子どもたちが色々な人を受け入れる経験も大事なことはないかと思えます。このことについては、地域の協力もあるのではないかと思います。</p> <p>合わせて、私が望みたいのは、これだけ市として教育委員会として</p>

島田委員	<p>取り組んでいるわけですので、地域に頑張ってもらいたい、保護者に頑張ってもらいたい。そのことで、学校も地域も良くなるのではないかと思います。この制度によって、志佐から学校に馴染めない子を救うことになる、上志佐小学校も増えて、地域も活性化するようになる方向にもっていければというふうに思っています。</p> <p>志佐小学校の子どもが、上志佐小学校に通えることには大きなものがあります。それとともに、上志佐小学校の子どもたちも、新しい風が入ってくるということで、それまで限られた子どもたちの間で育ててきているわけですが、そこに新しい風が入ってくる。そうすると、その子たちを受け入れて、仲良くやっていくか、学習していくか、社会勉強にも繋がっていく。そうになると、受け入れる学校も大きなメリットがあると思います。</p>
市長 氏山委員	<p>子どもを持つ親という立場で、氏山委員、いかがですか。</p> <p>上志佐の子はいい子だと、よく耳にします。少人数ならではの良さといえますか、そういうものがあるようです。</p> <p>英語教育実践のことも話されていたのですが、すごく英語教育に力を入れられていて、上志佐小学校は良いと何年か前に聞いていました。そういったことから、上志佐小学校は残してほしいと思うのですが、先ほど統合もあると言われましたが、特別転入学制度が成果をあげれば統合はしないという方向はあるのですか。</p>
学校教育課長	<p>説明会の中では、そのことについても説明を行っています。制度を活用する子どもたちが何人かいて、上志佐小学校も特色ある教育活動を実践して活性化するようなことが見えてくれば統合しないということもあるし、また、実際に制度を活用する子どもたちがいない場合には統合することもあり得ると、どちらの方向もあり得ますと説明をしているところです。</p> <p>33年度までとしているのは、統合には準備期間がいりますので、教室が不足しないようになる時期がいつかということを含めて、2年ほどの準備期間を考えて、33年度までに一定の検証をさせていただきますというお願いをしているところです。</p>
市長	<p>適正配置基本計画があって、これに基づいてやってきたということを見ると、やはり現時点では、この制度を実施して効果が出なければ統合ということにならざるを得ない。ただ、私が示しているビジョンの中では、小学校区単位のまちづくりを進めるということを掲げています。これは、人口減少は避けられないと思います。そういった中で、それぞれの地域のコミュニティが機能しないと人が暮らしにくくなる可能性があります。旧松浦は特に、平成の合併前の松浦市の頃は、昔ながらの旧町意識が地域の一体感を阻害しているというような意見がありました。だから、もっと融合して一つにやったほうがいいとの声が平成のはじめの頃ありました。お祭りを一か所にしてみたりということがありました。なかなかうまくいきませんでした。これは松浦の気質だと思います。まさに小学校区単位ごとに町の起こりがあって、その中でコミュニティが出来てきて、未だに区長会、地域振興会といったものが小学校区単位でできています。これは、今後人口減少が進んでいく中で、地域の暮らしやすさを維持するためにも、やはり</p>

	<p>小学校区単位というくくりが一番しっくりくると思います。その中で上志佐小学校をどう位置付けていくかという意味でも、これから3年間のこの動きは大事になってくると思います。ですから、その3年間で踏まえて上志佐小学校を残していくほうが、先々のコミュニティの維持、これがチルドレンファーストから現時点ではずれているかも知れませんが、それは子どもたちを第一に考えてでもこれが良いとなるようにもっていくための3年間にしなければならないのではないかと思います。</p>
金井田委員	<p>それがうまくいけば、適正配置基本計画とはまた新たな視点というのが生まれてくるのではないかと思います。金井田委員いかがですか。</p>
学校教育課長	<p>実施するからには、それなりの成果が必要と思います。以前に、例えばアンケート調査や保護者への意見聴取といったことはあったのでしょうか。</p>
金井田委員	<p>説明会の前にアンケート調査は行いませんでしたが、説明会の折にアンケートを保護者に渡しまして、忌憚のないご意見をいただくようにということでのアンケートを実施させていただきました。アンケートといたしますか、意見を聴くような場面を設けさせていただきました。</p>
学校教育課長	<p>特に、その中の意見で、この制度に関して反対するような意見はなく、どちらかというところ、この制度を応援するような意見があったと思います。</p>
金井田委員	<p>難しいとは思いますが、実施したとして、どのくらいかというののわかりませんか。</p>
学校教育課長	<p>説明会に7名の保護者が参加されていまして。その中には兄弟がいるというところもありましたので、転入学をするとすると、10名近くの子どもたちが上志佐小学校に通学するということになりますが、検討中ということですのでわかりません。</p>
市長	<p>上志佐小学校で説明したときには、現在、志佐小学校の校区に住んでいながら、上志佐保育所に通っている就学前の子どもが3人いますが、その子は今、上志佐小学校の子どもたちと交流してコミュニティがとれています。もしかするとその子たちを慣れ親しんだ子どもたちと一緒に上志佐小学校に入らせたいと思われているかも知れませんが、そういう子どもたちが通ってくれるかも知れません。</p>
市長	<p>説明会の中では初年度から多くの子どもが通わないと成果があがったといえませんが、1名でも2名でも通う子が出れば成果として評価させていただきますと、お話をさせていただいています。</p>
市長	<p>課長の説明のとおり、1年目は本当はどうなるかわからないと思います。保護者も、例えば自分の子どもを通わせたいけど、どうなのだろうかおっしゃる方もいらっしゃるかも知れません。誰かが通って、その子たちの雰囲気、その子たちがどのような教育を受けて、どんなメリットがあったのかを感じられたら、自分の子もというふうの流れができるのではないかと思います。3年間はきっちり、ゼロであっても、3年間は実施するということが大事ではないかと思います。</p>
教育長	<p>全くそのように考えています。これは星鹿小でも似たような状況に</p>

<p>市長</p>	<p>なっています。2年後以降になると、複式のぎりぎりの数の時があります。16人になると複式になるので、17人という状況が結構あります。</p> <p>ここでの事例が、星鹿小等にも波及していくと思っています。大事な3年間をしっかりと検証したいと思います。</p> <p>以上のような考えを基に、特別転入学制度を実施していくとことごとでございます。この件については、教育委員の皆様方、よろしいでしょうか。</p> <p>今後の推移を是非みていただきたいと思ひますし、これから具体化していく中で、ご指摘の点がございましたら、お話を聞かせただけたらと思ひます。</p> <p>次に、議題2の「子ども議会での中学生議員の提言を受けて」に移ります。</p> <p>まず、私の意見を述べさせていただきます。子どもたちの意見、質問は、今の松浦市が抱えている課題を直視して、子どもたちなりにどうすれば解決できるのだろうかということを、質問として捉えてくれたようです。</p> <p>松浦市を元気にするためには集いの場が必要なのではないかと志佐中学校の提案。その中で中央公園をどうすればよいのかということがありました。</p> <p>青島中学校については、診療所に常勤のお医者さんがいないということを、子どもたちなりに課題として取り上げてくれました。また、青島の課題、青島を活性化するためにはということでも提案をいただきました。</p> <p>調川中学校は、非常にセンセーショナルというか、まず質問に入る前に、子どもたちがクラスでアンケートをとったら、将来松浦市に残りたいというのが15パーセントで、将来出て行くというのです。85パーセント、これは我々に突き付けられた「生の声」だと思ひました。子どもたち、中学生がこのようなことを思ひていたら、だめだなと思ひました。正直私は、子どもたちがこのようなことを思ひている以上は、まちづくりは成功しないと思ひました。そういった視点に立って、子どもたちが、松浦市に残るとすれば、こういったことが必要ではないかという提案をしてくれました。旬さばの缶詰を売り出すために、具体的にこんなことをやってはどうですかと、具体的な提案があったのです。箱を宝石箱のような箱に入れてはどうですか、ラベルに松浦のいいところをプリントして売ってはどうですかと。すぐ使えそうな提案をいただいて、缶詰の発売元である観光物産協会に伝えたいと、私自身、答弁したところでした。</p> <p>福島中学校は、棚田の整備をどうするのかとか、ネットの環境が悪いと、光が来ていないので何とかすべきではないかといったご指摘と、まさに福島の地域おこしのためにはどうするのかというご質問でした。</p> <p>今福中学校も同じように、地域の行事だとか、こういったものをもっともっと盛り上げていくためにという視点での指摘もありました。ふるさと納税をもっと頑張らなくてはいけないではないか、議会でも</p>
-----------	---

	<p>よく取り上げられます「ふるさと納税」を指摘してくれるというのも良かったと思います。</p> <p>御厨中学校は、御厨町の人口がどうなのか、人口減少は問題ですよということ、そのためには、これも中学生らしくネット環境を整備していったほうがいいのではないかとということだとか、ふるさと納税はどう使われているのかという質問もありました。</p> <p>鷹島中学校は、以前、福岡にあったアンテナショップはどうなったのかという指摘だとか、もっともっと上手に物産PRを展開すべきではないかということ。まさに議会でも言われている「モンゴル村」をどうするのか、温泉だけでも再開してはどうだという質問がありました。</p> <p>いずれも子どもたちの視点でありながら、課題を的確にとらえて、市議会でも取り上げられるような点を、子どもたちなりに考えて、提案型の質問をしてくれて非常に素晴らしいと思いました。事前に回答書を渡して、子どもたちにしっかり考えていただくのには非常に良い機会だったと思います。今後の松浦市の子どもたちをいかに育ていくかということのヒントにしなければいけないと思います。85パーセントの子どもたちが、よそに行きたいと思っているこの現状を何とか変えなければいけない、それは、子どもたちが警鐘を鳴らしてくれたことですので、率直に、じゃあどうすればこの考えが変わるのかということをも真正面に受け止めて対応していかなければならないと思ったところです。</p> <p>概要についてお話ししましたが、皆様方のご意見をいただければと思います。</p>
金井田委員	<p>子ども議会で、調川中学校の85パーセントの数字が出ました。私は、最初は外に出てもいいと思っています。帰ってきた時に住める松浦市が必要ではないかと思っています。空き家について、市長の取り組み或いは考えをお聞かせください。</p>
市長	<p>空き家については、まずは、空き家バンクに登録してくださいとお願いしています。空き家バンクに登録していただくことを条件に、家財道具等の処分にかかる費用を支援しています。こういった制度がまだまだ十分伝えられていない部分があるのではないかと考えています。税務課が市外に住んでおられる方に、納付書を送ります。こういった方々へ納付書を送る際に、制度があることを伝える努力をしなければいけないと思っています。今年も送付したときに、私が就任したばかりだったので間に合っていなかったということがあるのですが、一部対応した部分もあるのですが、もっと松浦市のこのような制度を使うと、空き家バンクに登録していただく家財道具が処分できるし、借りる人も出てきますと言うことができるので、こういったことはもっともっと積極的に行わなければならない。今、特に上志佐地区、星鹿地区を重点地域として都市計画課で、空き家自体を地域の地区長さんにご相談いただいて、まだ使えそうな空き家がどれだけあるのかということをも地域で調査をいただいています。こういったものを、現地を確認しながら、そして、この空き家は使えるのではないか、この空き家は無理ではないかという判断をして、具体的な空き</p>

<p>金井田委員</p>	<p>家バンクへの登録をお願いするとかいうことをやっていきたいと思 います。これは決して上志佐、星鹿地区だけでやるのではなくて、鷹 島でも福島でも市内全域においてやって行って活用すべきだと思 います。</p> <p>それが活用できれば、資産をお持ちの方も税金を払うより、貸して 使ってもらった方がいいとことがありますのでね。ただ、仏壇があ るとか、大切な思い出の品があるとかいった意見があつて、なかなか 進まないのですが、最近はそのをビデオや写真といったデータ化して とといったことを国土交通省も進めていますので、我々も活用しながら やっていかなければならないかと思ひます。</p> <p>実際帰って来ても住むところがない。借りると家賃が高いという話 があります。</p> <p>使える物件はあると思ひます。そういう所にUターンで帰ってきた 人のために補助金制度活用して、借りた方、貸した方には半額補助或 いは減税とかですね。それで、貸した人にも何らかのメリットがある ような制度がないのかなと思ひました。</p> <p>どうしても住むところが無いというのが、「帰って来いよ」と言っ た時に最初に困るところです。</p>
<p>市長</p>	<p>日曜日に、福島一周のわいわいフェスタに参加して、福島を歩いて きました。里の養源小学校の校長住宅、私はどこにあるか知りませ んでした。一緒に歩いていたコーディネーターの方が、校長住宅を教 えてくれました。立派でした。あれは今、草刈りなどを地域の皆様にお 願いしていますから、地域も何とか活用してほしいとおっしゃって います。いろは島が見えるベストポジションです。あれをそのままし ておくのは勿体ないですから、何かに活用できないか。一般に泊まる だけなら「つばき荘」を利用させていただきたいのですが、そうでは なく、自分たちで煮炊きをして、みんなで泊まってということをする なら、「ここもどうぞ」というようなことで、それが惹いては移住を促 すような「お試し住宅」というのを、地域暮らしを体験していただく ような場所にするとか、そのような活用をしなければならぬと思 ったところ です。</p> <p>鷹島にもロケーションが良くて、ここなら使えるという物件がある とするなら、是非ご紹介いただきたいと思ひます。船唐津なんかあり そうですね。今後、そういったご指摘は踏まえていきたいと思ひ ます。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>本論から少し離れましたが、子ども議会について、教育委員会とし ての資料がありますので、こちらの説明を少ししていただけますか。 「ふるさと松浦のまちづくりをとともに考える決議」がございます。 一般質問の大まかなものについては、各学校が出した議題が載って います。</p> <p>この決議文を聞いておりました、胸が熱くなりました。</p> <p>一段落目に、「改めて自分たちが住んでいる地域や松浦市全体のこ とを考える機会を得た。」。</p> <p>中段で、「松浦市は、自然が豊かで歴史や伝統のある、素晴らしい 私たちのふるさとです。」。松浦市の良さに気付いています。</p>

それから、「今回の貴重な体験を生かし、まちづくりを人ごととせず、将来のまちづくりの担い手として、これからのまちづくりについて仲間とともに考え、皆様とともに、ふるさと松浦を創るために取り組んでいきたいと思えます。」ということです。最後に松浦に帰って来るとかいう思いも、私は金井田委員もおっしゃられたこともここに含まれているのかなというふうに思っております。

A4横の資料です。子どもたちの決議を使わせていただきながら、松浦市への愛着を持ち、ふるさと発展の担い手となる人材の育成をするためにということです。

現状分析といたしております。これは子ども議会での様子です。地域の物産のPRや、ふるさと納税の活用、人口減少の問題であるとか、それぞれの地域の魅力をどう発信するだとか、イベントの充実、公園整備等交流人口の拡大、安全・安心なまちづくり等についての意見が出ています。先ほど申しました調川中学校の「どうして松浦に残らないか」という中で、職業の選択肢が少ない、いろいろな面が不便、病院が少ない、就きたい職業がない、空家・空き地が多い、買い物する場所、都会のほうが魅力的というようなことが意見として出ていました。

現在の状況として、全国学力学習状況調査、質問紙調査の中で、次頁ですが、地域と関わった内容の質問について、経年で比較したものを載せております。平成26年度からの経年比較を載せていますが、26年度から無いものは、その当時の調査の質問にはなかったということです。地域に関わったことを3枚載せさせていただきました。その中で、教育委員会としましては、今後どのような子どもの育成を目指すのか、松浦型教育ビジョンを整備していくのはどうか。平成31年度まで現在の教育振興基本計画で取り組んでいきますが、新しい教育振興基本計画を立てて行くときに、松浦型の教育ビジョンというかたちで、松浦は小学校、中学校それに松浦高校支援を行っていますので、それも松浦の特色であるのではないかと、こういうことも含めたビジョンの提示はどうかということで、松浦市の特色を生かした、市民総がかりで教育を実現するというビジョンあたりでご意見をいただければと思ったところです。

協議の対象として、まずは、学校の教育力の向上は大前提です。特に教職員の指導力向上は、私たち教育委員会の、学校教育課としては頑張っていかなければならないことだと思っております。学校経営力、学級経営力の向上であったり、授業力の向上であったり、学校として地域と連携・協働する取り組みであったり、また、教育環境を整備するということが非常に大事で、エアコンの整備、校舎耐震化を現在進めているところです。合わせて生涯学習の充実についても取り組まなければならないのではないかと、ということで、それについて、その横に点線で囲んでいるようなものあたりに、提案ということではありませんが、ヒントとしていただければと思い記載しています。

(1) 主体的に学ぶ子供の育成というところで、学習指導要領が変わります。変わる大きなものとして、これまでは教員主体として何を教えるか、という学習指導要領でした。今度の学習指導要領は、子ども

市長	<p>もを主体に、何を学ぶか、子ども自身がどのように学ぶかという子ども主体の学習指導要領に変わってまいります。その確実な実践をするということが、子ども議会の子どもの「人ごととせず、まちづくりの担い手となる」ということにも繋がっていくと思います。</p> <p>やはり、松浦を愛するためには、ふるさと教育の推進にも力を入れないといけないということで、そのためにも、まちづくりへの主体的・協働的な参画意識の育成ということで、子どもたち自身も、それに取り組んで行きたいと考えていますので、このあたりの意見をお聞かせいただけたらと思います。</p> <p>先ほどの上志佐小学校の中でも出ました、小学校区を中心としたコミュニティを高めていくために、コミュニティスクールを設置することにも取り組んでいくことはどうか、というふうに思っております。</p> <p>現在、学校教育で課題が出てきている中で、やはり家庭の教育力の向上も力を入れて行くべき内容ではないだろうか。親力の復活、これは家庭の会話の充実が親力復活に繋がるのではないかとということ。あと、生活習慣の確立、朝、起きる時間、寝る時間、家庭学習に取り組む時間、この3つの時間を固定して取り組むというあたりも、今、市内の学校が取り組んでいるところです。子どもたちが安心して学んだり、安心して生活したりするためには、衣食住の安定は非常に大事ですし、特に朝食を食べるということは、データとして取り込んで行けるかと思えます。</p> <p>合わせて、地域の教育力の向上ということで、地域の中で学ぶ教育を推進する。そのためにも、地域の人材を育成するということで、地域学校協働活動としておりますが、小学校区を中心としたコミュニティスクールを生かすためにも、地域が中心となった活動も必要ではないかということで書かせていただきました。</p> <p>これらを通して、松浦型教育ビジョンということで、松浦高校との連携を深めながら、松浦市の未来を担う人材の育成。松浦市だからこぞできる教育。小さな市だからできる機動力を生かした産業、学校、行政の連携・協働による取り組み。あと、本市の産業の理解を進めることも大事だと思えました。これは県も取り組んで行くということになっています。そういう中で、地域を担う人材育成。</p> <p>最後に、一人ひとりが個性を生かして、全ての人たちが自分の良さ、個性を生かしながら「まちづくり」に関わろうとする人材を育てるためのビジョンになればという意味で、この資料を作らせていただきました。</p> <p>こういったことを参考にご意見をいただければと思いますし、グラフも参考にいただければと思っています。以上です。</p> <p>学校教育課長から、子どもたちの子ども議会に向けた姿勢、そして子どもたちが決議してくれた思いを、いかに教育の場に生かすのかという意味では、課長から示されたようなことになるのではないかとということです。</p> <p>子ども議会そのものも、教育活動の一環として実施されているわけですから、それを今後の教育に生かさなければならぬ、という意味</p>
----	--

<p>島田委員</p>	<p>で、ここにまとめられたようなことを進めて行ってはどうかという提案ですが、こういった視点で皆様方のご意見をお願いできればと思います。</p> <p>私も、子ども議会を傍聴しました。非常に画期的な取り組みだと感じました。ここに「松浦市への愛着を持ち、ふるさと発展の担い手となる人材の育成」とされています。まさにこれに繋がっていると改めて実感しました。自分の中学生時代に、自分の住んでいる地域について、あそこまで考えたかなと思いました。そこまで考えなかった気がします。また、学校もそういった取り組みをしていなかった気がします。そういったことから考えますと、この取り組みは、非常に素晴らしい取り組みだと思います。</p> <p>子どもたちの発表それぞれが、生き生きしていました。「ここまで考えてきたのです。聴いてください。」という気持ちが表われていました。特にそのことを感じたのが調川中学校です。わざわざ絵にかいて、こういうものをと、そこまで具体的に考えていた。すごいと思いました。やはり問題は、子どもたちが議会に携わって良かったという気持ちが、なお強くなればという思いで、ここに提案された一つなり二つが、実際に実現ができた。そして、市長が「あなたたちの提言のおかげで、これが実現しましたよ」というようなことがあれば、子どもたちもやる気になってくると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>具体的に、先ほどの「鯖缶」提案は、何かできるのではないかと考えています。また、中央公園のリニューアルを計画しています。中央公園の提案も志佐中学校からありましたから、そういった中身を実現に向けて動き出せばとも思います。せっかくこういった場を設けて、子どもたちに、言い放しに終わらせないことが我々の責任と思いますから、出来る限り、具体的に、この質問の進捗状況をホームページ等で示してほしいというのがありました。今、ホームページをリニューアルしていますので、そういった中でお知らせできればとお答えしたところです。できることはしっかりと着実にして、ご指摘のとおり「私たちの提案が具体化して、このようになっている」と、子どもたちが実感できるよう、責任をもって努力したいと思います。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>中学校議員に私の子どもも出ささせていただきました。本物の議場で貴重な体験で、よかったと本人も言っていました。夏休み中に市役所の方が各中学校に行かれて説明されたと思いますが、そこで、松浦市の知らなかったことが結構たくさんあったみたいで、子どもたちも良かったと言っていました。</p> <p>御厨ですが、人口が減少していますが、蛇踊り保存会の方が学校をおとして色々、蛇の指導とかもされているので、そういう面倒見のいい方たちばかりで、子どもたちが憧れて、自分も大きくなったら、大人の蛇をもって、小さい子に指導をしたいという声も聞こえたので、やはり、大人が元気であれば、子どもも元気になるというか、松浦大好きになるのではないかと感じたところです。</p> <p>子ども議会も、西海テレビで放送されています。それをビデオに撮って観ていますが、やはり、子どもたちは色々よく考えて、松浦のことを考えていると感じました。</p>

市長	<p>今お話があったように、地域の伝統や文化を担う子どもたちです。それが、私は長崎の「おくんち」を見て、「おくんち」にはまっている人の話を聞いて、あそこは7年に一度しか踊り町がまわってきませんが、大人になってもう一度「おくんち」に出るためにということで、地域で暮らしている。ただ、伝統・文化というのは、今大きい課題になっている定住人口の確保を図る上で、一つの要素になると思います。それだけでは引き留めることは難しいでしょう。色々複合的なものはあるけれども、それも一つの定住人口増につなげる、少なくとも流出を防ぐ一つになると思っています。中学校の総合学習で使う蛇踊りの蛇が、ふるさと納税の財源を活用して新調するというので、既に決定しています。議会からも市内の様々な伝統、文化、芸能といったものを継承させなければならないのではないか、そのために、市として何らかの手立てが必要ではないかご指摘をいただいております。「蛇踊りの蛇を新調します」と一般質問でお答えしたときに、決して御厨だけ特別にやるのではない、今申し上げた視点から、郷土芸能は、子どもたちを成長させるためにも一つのきっかけになるので、色々なものをちゃんと整備してやっていきたいというお話をしたところです。ですので、今後も是非、教育委員の皆様にも、そういった視点からご指導を賜りたいと思うところです。</p> <p>議会でご指摘があったのが、上志佐小学校の「田ノ平浮立」です。田ノ平地区のお祭りですが、それを指導いただいて、上志佐小学校の子どもたちがやっている。ですので、こういったものを地域の伝統で使えないかと思えます。先日は長崎新聞の「記者の目」で、土谷浮立の継承について指摘がありました。厳しい指摘ではありましたが、記者としてもそういった視点が抜けていたという自戒をしながら書いているのだけど、私は、ああいった指摘が、第三者的にあったことは、これからまちづくりを考えていく上でも、一つのきっかけになったと思えました。こういった伝統を残すためには、どうすれば継続できるのか。若い人たちを残すためには、地域として、こういった地域づくりをしていけばいいのだろうということです。担い手がいなくなって継承できないと言われていますが、私たちがなぜその地域に住まないのかといったことを考えるきっかけになるのではないかと思います。子どもたちにこういうことを繋げていって、子どもたちが分かってくれると10年後には、ずいぶん変わるのではないかという気がします。</p> <p>島田委員がおっしゃられたとおり、以前、子どもたちに、ふるさとのことを考えさせるということも、あまりなかったと思います。そういうことが、不十分だったという語弊があるかもしれませんが、そういったところに、十分な対応ができていなかったことが、調川中学校の子どもたちの指摘のような結果に繋がっているのではないかと思います。</p> <p>私は、松浦高校で講演をしました。金井田委員がおっしゃられたとおりなのです。一度出ても良いと思っています。でも、出て行く前に、まず、ふるさとのことを十分知らないと比較できないでしょ、と言いました。自分がどこかに行くと、ここは住みやすくないと思ったとき</p>
----	---

	<p>に、どんなところが住みやすいところなのか、どんなところがいいかというのは、少なくとも松浦と比較する時に、松浦を知らなかったら比較できないでしょ、だから、しっかり松浦のことを、自分自身が見て聞いて感じなければだめですよ。親が言うからとか、友達が言うから、それが全て正しいとは限らないよと、というような話をしてきました。そういったことを子どもたちが自ら、こういったことを学んでくれると、そういった機会をつくっていくと、調川中学校のようなアンケートを5年後くらいに実施したいと思います。</p>
教育長	<p>県も定住人口を増やそうということで、大きな目玉に「ふるさと教育」というのを頭においています。まさに、地域の色々な人がいます、お年寄りの巧の技であったり、色々なことをしたり。あと、松浦市には優良な企業もありますし、水産も農業も頑張っていてやっておられます。行事関係も浮立にしても色々なものがある。そういったものを最大限に生かし、松浦だからできる教育というのを、誰ができるのかというのをしっかり掘り出しながらやっていくということが、やはり、松浦市のことを、松浦市の魅力を知ることになるだろうし、本物を学ぶことになるし、出て行って戻す力にもなると思います。</p> <p>その時に今、具体的にされているのが、いわゆる「コミュニティスクール」があって、これまで学校支援会議ということで、学校に人が集まり応援をするという、お客さんの的なのですが、まさに学校と地域が一緒になって、間をつなぐ地域コーディネーターが核となって地域の引き出しを行う、地域も元気をもらう。上志佐からしますので、増やしていこうと思っています。それがひとつの大きな「ふるさと教育」になる。小学校区単位のもので。</p> <p>では、市として何ができるか。教育委員会として何ができるかということも、さらに考えていかなければならないと思っています。一つは、松浦高校を支援するばかりではなく、松浦高校からも、例えば、ロードレース大会に吹奏楽部が来て応援してくれるとか、一緒に走るとか、そういったものをすると、逆に松浦高校の魅力にもなります。それぞれの立場で、色々と考えられると思います。</p>
市長	<p>鷹島では、和牛をやっている、若手の経営をされている方が、今なら和牛も儲かる。自分の同級生や仲間とかに「帰って来いと言え」と言っていました。彼が言ったのは、「鷹島はこのままでは耕作放棄地も増えていく。しかし和牛をすれば飼料作物がそういったところのできるのでもいい」という話をしてくれました。実際に自分たちも声をかけている。たまたま今、和牛が非常に良くて儲かる産業になっているのだから、そういうふうになるのかなと思います。金井田委員自身もご実家の生業を継いでいらっしゃる。これからの子どもたちを、地域のふるさとの担い手とするためには、まずは家業を継ぐという感覚を育てていかないといけないのではないかと思います。そのためには、その産業振興も必要だと思いますが、産業振興は産業振興としてやっていきながら、そうしていくことが定住人口に繋がるのかなと思います。こういった意味での、子どもたちがふるさとの担い手になるという視点では、実際に、ご自身の視点からいかがでしょうか。</p>
金井田委員	<p>鷹島にも県の特産品の阿翁石があることを踏まえて、先月、鷹島小</p>

<p>市長</p>	<p>学校3年生が20人ほど工場に来ました。3年生は見学、4年生になると実際に彫刻をやっています。私の場合は子どもが慣れているものですから、親が石屋をしているところなるべく行くように言っていました。受け入れてくれる親がいません。</p> <p>やると、教えるというのは楽しいものです。町で合ってもあいさつしてくれます。「地元でこういった仕事があるということがわかりました。モンゴル村の駐車場にある岩が、その石だったのですね」と、やはり発見ですね。鷹島の阿翁石が使っているのだよと教えていっている。石屋は石屋で、漁業は漁業で。私たちが教える分は教えてやるというか。</p> <p>子どもたちがひとり一人感想文を書いてくれました。今回はピザ石の感想が多くて。こういう品物もできるということを今回教えたかった。冷たいものだけではなくて、石で温かいものもできると。その発想を石に限らずに、他のものにも生かしてもらえればというところは確かにあります。</p> <p>そういった意味では、先ほど教育長が言われた地域の方々の力、地域の方々がそこで行われる生業を子どもたちに教えていただくということが、子どもたちの発見にも繋がるし、例えばそこで、その家の子はあまり感じていなくても、子どもたちが行って「お前の家、すごいね」とかいう話になると、子どもたちが決議してくれた「人ごととせず」に繋がっていくのかなと思います。</p>
<p>金井田委員</p>	<p>子ども議会の中で、ネットということが2項目出ています。WIFIスポットについて市長はどのようにお考えですか。</p> <p>宮崎市の青島では、神社の中にスポットがあつて、そこから情報発信しています。松浦市は少ないと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>まず、「光」が来ていません。今年度中に事業者を選定して、公募して、松浦市が整備に一定の補助金を出すので、この条件で整備できる方は手を挙げてくださいと、しています。31年度に松浦地域、32年度に福島、鷹島地域の高速大容量光ケーブルを民間が引きます。松浦市が補助金を出してです。その代わり、ルール化してハードルを作ってやってもらいます。それができたら、市内全域「光」が来ますので、必要などころにはフリーWIFIのスポットを作らなければならないと思っています。フリーWIFIも、ただ出し放題ではだめだと思っています。使う人が男性なのか女性なのか、どこから来たのか、何の目的で来たのかというのを入力してから、WIFIに接続できる。そうすると、そのデータが貯まってきます。それはフリーWIFIをしていることで、実際に例えば鷹島の「鷹ら島」とか、モンゴル村とかに先々設置しなければいけないと思うし、埋蔵文化財センターにも置かなければと思います。データ入力をしてもらってデータを集める。それを例えば、次のイベントのチラシ配布に活用し集客に使う。フリーWIFIは経費がかかります。サービスするだけではなくて、こちらも集客に使う。そういったことが必要だと思っています。</p> <p>市の若手職員から提案がありましたが、外国人旅行者も松浦市に呼び込みましょうという提案をもらっています。私自身これはやらなければと思っています。個人旅行者が増えてきますので、外国人は通信</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>料の関係もあってW I F Iだけ使うようにしています。フリースポットに行くとW I F Iが繋がって、そこでS N Sを発信します。これは必要です。インスタグラム等をどんどん発信していただく。「光」が市内に通ってからやりたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。子どもたちの提案を受けて、それから先ほど学校教育課長から、このように子どもたちを育てていきたいという考え方が示されました。こういった考え方の中で様々な施策を考えていくということですが。この点についていかがでしょうか。</p> <p>W I F Iをフリーに使えるようになった時に、子どもがその使い方をコントロールできる力をつけないといけないと思います。例えばコンビニの近くに行って、時間にとらわれずにやるというのはいけませんし、主体的に自分の行動を考える力が必要で、家庭との連携が欠かせないと思います。このような取組みを地域でやるべきではないかといった意見があったら計画に盛り込んだりすることができるので、地域で子どもを育成する課題とかありましたら、教えていただけたら、ありがたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>学校教育課長から皆様にお尋ねがありました。</p> <p>ここですぐ出なくても、これから定例の教育委員会だとか、そういった場でお教えいただければと思います。今、何かございますか。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>教育委員新人研修で、川棚町のお話がありました。その方が「ハッピーハウス」というのをされていて、子どもたちはだれでも集まって良く、W I F Iをしていたら、子どもたちが一日中ゲームをしていると。それで、W I F Iが繋がる時間を決めてやっているという話がありました。</p>
<p>市長</p>	<p>壱岐市は合併特例債で市内全域に、各家庭まで光ケーブルが配備されています。それを活用するために、ケーブルテレビも加入者を増やすために、子どもの運動会をたくさん撮るわけです。そうすると祖父母はそれを観たいものだから加入する訳です。そして、色々なところにW I F Iがあるので、企業がフリーで使ったり、子どもたちが動画を見たりして容量が足りなくなったということを知っています。</p> <p>先ほども指摘があったように、子どもたち自身も使い方をコントロールする力というのは必要になってくるのでしょうか。</p>
<p>金井田委員</p>	<p>教育委員研修で、情報処理力から情報編集力に変わる必要があるとありました。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>これまで近代工業型の、社長がいて、部長がいて、そして社員がいる、上からの命令に従えばいい仕事をする人たちがいた。これからはどんな社会になるかわからない、知識基盤社会の世の中で子どもたちが生きていくには、今言われたように、情報をもらった後に、それをいかに自分に使えるように編集するか、ということが、今度の学習指導要領でも求められているところですので、そのためには、どのように学ぶか、何を学ぶかというのを、子どもが主体的に考える力をつけないといけないと思います。そういうための教育に転換する、そういう地域になるためにも、教育長が申しましたとおり、地域の人も、学校を加勢するというのではなく、地域づくりのために自分たちは学</p>

<p>金井田委員 学校教育課長</p>	<p>校に行っているのだというような、視点をもつていただく。色々なことをしていかないと、学校だけで育つことはできないと思っています。</p> <p>先生は大変だという話でした。最終的には教職員を増やしてくれという話になりました。</p>
<p>島田委員</p>	<p>その言葉には抵抗感があります。教員は大変だというから、教員のなり手がなくなる。教育長は、教員という仕事は凄いい仕事だ、楽しい仕事だと言ってくださいます。教員がそういったことを発信できるように変わっていかなければならないし、そういう点でいくと業務を少し整理していかなければならないと思います。そのために地域との連携は必要なのかなと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>子ども議会の一般質問に至るまでに、相当に、学校で或いは家庭で或いは地域に行って調べ学習をしていると思います。もちろんネットも使っているでしょう。その集大成ともいえる子ども議会だったと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>子ども議会の取り組む考え方を事務局としてはどう考えていますか。定例的にやっけていかれるのか、試行的にやっけて検証されるのか。</p> <p>今回第1回目を開いて、今後の開催について、教育長はどうお考えですか。</p>
<p>市長</p>	<p>まず、子ども議会の価値からすると情報収集力です。市の職員が説明する、子どもたちが地域に行って調べる、そして授業で学んだ色々な知識を貯め込んでいる、その中から課題をみつけて、調川中学校のように自分たちでアイデアを出して、最後は一つの提案が出来る。まさに大きな学びです。そういった学びをした子どもたちは、社会に出ても、その状況の中で、自分で考え、判断し、生きていく力を身に付けている。そういう面からいくと非常に価値のある取り組みです。今年は中学校、来年は小学校で実施しますので、私としても、その状況を見て、校長等色々な意見を聴いたうえで決めたいと思っています。これだけでも価値あることですが、学校現場が忙しくなってくるので調整が必要なのですが、これを無くすのはあまりにも勿体ない。どう活かしていくか十分検討していきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>いずれにしても、非常に意義のある子ども議会であったということはご理解いただけたと思います。それを一つのきっかけとして、今後、先ほど提案があったような中身を進めていくということでもよろしいですか。</p>
<p>金井田委員 市長</p>	<p>その他に移ります。皆様方から何かございませんでしょうか。</p> <p>アジフライの聖地について、今のところの成果はどうですか。</p> <p>おかげさまで、マスコミの皆さんの反応がよくて、こちらがお金を払わなくともテレビ局が色々来てくれます。</p> <p>ある番組は、11月と12月の2回にわたって、芸能人がアジフライの聖地をまわる番組が放映されます。一週間ほど前は福岡KBCのテレビ番組がアジフライの聖地をまわっている。どうも、松浦市がアジフライの聖地と言ったこともあって、各地のローカル聖地を巡る企画がたちあがったようです。その第一弾が松浦市です。私も既に2回、ラジオに出演しました。</p>

<p>教育総務課長</p> <p>市長</p>	<p>実際にアジフライのマップを持って市外から松浦市を訪れる方も増えています。それなりの効果はあると思います。</p> <p>アジフライをつくっている店を儲けさせるために言っているのではありません。松浦という名前を、とにかく色々な人に知ってもらう、露出を増やすための一つのツールと思っていますので、これからどんどん生かして、来年の4月頃には「アジフライの聖地宣言」をしたいと思います。12月9日の西九州道松浦インターチェンジのイベントで、ウォークラリーに参加した人にはアジフライを配るとか、アジフライをどんどん押ししていきたいと思います。思った以上に、よそから来た人が食べて感動する、「アジフライの概念が変わりました」という言葉を聞きました。本当にすごいのだなと思っていますので、もっともっと盛り上げて、それをきっかけに、子どもたちがよそに行った時に「ふるさと松浦」ってどんなところ？と聞かれたときに、「アジフライの聖地」と言ってくれるようになれば、しめたものです。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>なければ、事務局からどうぞ。</p> <p>総合教育会議は、1学期ごとに開催する予定です。次回は、1月か2月でお願いしたいと思っています。</p> <p>教育委員の皆様方と、もちろん教育を中心に、そして、まちづくりについても色々な意見交換ができれば良いと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。</p> <p>以上をもって平成30年度第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れ様でした。</p>
-------------------------	--